

第2回地域公共交通会議（2月5日開催）以降の計画の変更箇所等について

資料4

変更前		変更後	
頁	委員の主な意見	頁	計画（最終案）への反映
1 第2回生活路線分科会（H28. 2. 22）			
102	<p>【ふれあいバスのサービスの見直しに向けた検討の流れ】</p> <p>○住民目線からすると、ふれあいバスのサービス見直しに関する基準を設け、路線の維持を図るために、地域が主体的に利用促進を行うことも必要である。ただし、小中学校への通学便対応の路線なども存在するため、画一的ではない運用が必要である。</p>	109	<p>修正なし</p> <p>住民座談会等を通じた直接的コミュニケーションによる利用促進活動の実施</p> <p>住民座談会や市が実施する出前講座等を活用して、市民の皆さんと直接コミュニケーションをとり、路線バスやふれあいバスの利用促進に向けた取組を行います。</p> <p>〔 ・住民座談会：平成28年度に市内8地域で実施予定 ・出前講座：「みんなで乗ろうコミュニティバス」【新規】 〕</p>
		107	<p>修正なし</p> <p>公共交通啓発チラシや広報誌等の活用、地域公共交通の利用実態報告の検証</p> <p>市民の皆さんと一緒にふれあいバスを「守り、育てる」ため、市が定期的に、市広報誌等において「利用状況」を報告することで、地域公共交通の利用促進に地域全体で取り組み、地域公共交通を「創り、守り、育てる」気運の醸成を図ります。</p>
－	<p>【路線見直しに関する周知広報について】</p> <p>○以前は、牧之原から路線バス「鹿屋～鹿児島空港線」に乗車した場合、国分で途中下車できなかったが、平成27年10月1日のダイヤ改正により、霧島市役所前及びホテル京セラ前に限り、途中下車が可能となった。このことについて、福山地域の住民に十分な周知が図られていない。</p>	108	<p>修正なし</p> <p>公共交通マップの作成</p> <p>公共交通の路線図やJR・路線バス・ふれあいバス等の時刻表等を記載した「公共交通マップ」を作成し、各公共交通機関の乗り継ぎ等を分かりやすくすることで利用促進を図ります。</p>

変更前		変更後	
頁	委員の主な意見	頁	計画（最終案）への反映
2	第2回観光路線分科会（H28. 2. 22）		
ー	<p>【全国共通 IC カードの導入について】</p> <p>○全国共通 IC カードを利用することで、バスに乗車する不安が解消され利用促進につながる。</p> <p>○導入に当たっての課題（nimoca の共同利用の場合）</p> <p>①キャッシュフローが西鉄（福岡）に移動することから、地元の金融機関の反対が予想される。</p> <p>②鹿児島県の IC カードは、全国共通 IC カードとの相互利用ができない規格であるため、利用者に対し、新たな全国共通 IC カードを渡さないといけない。</p> <p>③地域独自の割引サービスが使えなくなる、すなわち「nimoca」の割引サービス内でしか融通が利かない。</p> <p>○2020 年のオリンピックに向けて、国は、最低限「片利用」*を目標としている。九州内で片利用もできていないのは鹿児島と長崎のみ。導入に際して国の補助はあるが、ランニングコストに関し事業者の負担が出てくる。鹿児島は複数社存在し、事業者間の調整もでてくるので、県全体で考えるべき課題である。</p> <p>○ハードルは高いが今後は情報を収集しつつ何らかの検討をしていく必要がある。</p> <p>*片利用：「カード A」を使用しカード B のエリアで利用できるが、カード B を使用しカード A のエリアで利用できない。</p>	40	<p>新規記載</p> <p>●既存の交通系 IC カード（いわさき IC カード、ラピカ（Rapica））の周知徹底と利用促進を図る必要があります。</p> <p>●平成 27 年 2 月に閣議決定された「交通政策基本計画」において、平成 32（2020）年度までに Suica、PASMO 等の相互利用可能な交通系 IC カードを全ての都道府県で使えるようにするという目標を定めています。相互利用可能な交通系 IC カードの導入には様々な課題がありますが、旅客交通のサービスレベルの向上やインバウンド対策に向けた取組の一環として、関係機関との連携のもと課題解決に向けた調査研究を行っていく必要があります。</p>

変更前		変更後	
頁	委員の主な意見	頁	計画（最終案）への反映
—	<p>【インバウンド対策について】</p> <p>○バスの周遊チケットを PR していく取組が必要。インバウンドが増えているので、外国人にも分かるようなチラシを作り、チケットも多言語化を図るような取組を計画に記載してはどうか。</p> <p>○無料 WIFI 環境の整備が必要なため、インバウンド対策では紙媒体の方がベター。インバウンド対策なのか、国内観光に対する対策なのかで施策が変わってくる。</p>	109	<p>新規記載</p> <p>公共交通に関する総合的な情報発信・PRの強化</p> <p>地元住民のみならず、観光客をはじめとする交流者に対する公共交通の情報発信・PRの強化を、運行事業者等の垣根を越えて実施していきます。</p> <p>例えば、「霧島遊めぐりバスマップ」などの公共交通利用促進資料や、霧島エリアを路線バスで周遊観光できるきっぷ「霧島『のったりおりたりマイプラン』バス1日乗車券」などの企画運賃などの総合的な情報発信・PRを強化します。</p>
110	<p>【ICTの活用について】</p> <p>○NAVITIME で「霧島市役所から目的地の霧島神宮」を検索しても、実際に運行されているにも関わらず、該当するバス路線が表示されない。</p> <p>○バスは生活でも観光でも利用されるので、多くの情報を出すと複雑になってくる。観光客に対するサービスであれば、観光客にとって必要なサービスのみを掲載すればいい。</p>	110	<p>文言修正</p> <p>ICTを活用した効率的な公共交通情報の提供の検討・実施</p> <p>国内外の観光客等に分かりやすい二次アクセスに関する公共交通情報発信を行うため、パソコンやスマートフォン等でバス等のダイヤ情報や乗り継ぎダイヤ、観光地等の最寄バス停、経由ルートを簡単に入手できる「バスダイヤ簡易検索システム」の導入を検討します。</p>
3 地域公共交通会議委員への照会（H28. 3. 1～3. 16）			
—	<p>【2次アクセスについて】</p> <p>○JR 各駅の乗り継ぎ状況（2次アクセス）を記載してはどうか？</p>	31 ～ 37	<p>新規記載</p> <p>市内各JR駅と路線バス等の接続状況を掲載</p>
94	<p>【観光移動に関する再編の方向性について】</p> <p>○乗降客も国分駅が格段に多い中、将来的に新たな市の玄関口を“隼人駅”としているが、その根拠が記載されていない。</p>	94	<p>文言修正</p> <p>観光移動に関する再編の方向性を次のとおり修正。</p> <p>【変更前】 霧島市の新たな玄関口となる「隼人駅」を拠点としたバスネットワークの効果的な見直し</p> <p>【変更後】 市内最大の乗降客数を誇る国分駅と、今後、東口における駅前広場などの整備が行われ、霧島市の新たな玄関口となる「隼人駅」を拠点としたバスネットワークの効果的な見直し</p>

変更前		変更後	
頁	委員の主な意見	頁	計画（最終案）への反映
—	<p>【公共交通相互の接続について】</p> <p>○現在の幹線系統の見直しはどのように考えるのか？地区の拠点で鉄道や幹線バスに乗り換えて市の拠点（国分・隼人地区）まで外出できる事が基本ではないか？</p> <p>○現状の運行形態で可能であれば継続することも施策となる。</p>	97	<p>新規記載</p> <p>P51の「公共交通相互の接続状況」を踏まえ、「計画の目標」に次の2項目を追加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「ふれあいバス」と「JR・路線バス」の乗り継ぎ余裕時間に問題がないと考えられる便の割合 目標値（H31）60%以上〔基準値：48.4%（H27）〕 ●「鹿児島空港とJR国分駅を結ぶ路線バス」と「JR日豊本線」の乗り継ぎ余裕時間に問題がないと考えられる便の割合 目標値（H31）60%以上〔基準値：55.4%（H27）〕
113	<p>【PDCAについて】</p> <p>○達成状況の評価については、大きなサイクルと小さなサイクルにより評価を実施することとなっているが、具体的な評価方法の記載は必要ないか。</p>	114	<p>新規記載</p> <p>「数値目標に対するモニタリングの実施時期」を追加</p>
		116	<p>新規記載</p> <p>「PDCAサイクルの流れ（案）」を追加</p>
4 パブリックコメント			
	<p>（1）実施時期 平成28年3月4日（金）～3月22日（火）</p> <p>（2）資料の閲覧場所 情報公開室、企画部企画政策課（いずれも国分庁舎4階）、隼人地域振興課、溝辺総合支所地域振興課、横川総合支所地域振興課、牧園総合支所地域振興課、霧島総合支所地域振興課、福山総合支所地域振興課、福山市民サービスセンター、市民サービスセンター「コア・よか」、市ホームページ</p> <p>（3）意見 0件</p>		